

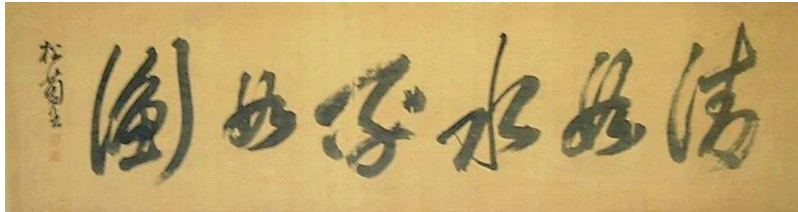
# 西の菜時記

平成27年 12月 29日発行  
第39号

発行元：山口市菜香亭  
指定管理者  
特定非営利活動法人  
歴史の町山口を甦らせる会

## 特集：木戸孝允ゆかりの地を辿る

◆山口市菜香亭：〒753-0091 山口市天花1丁目2番7号 TEL:083-934-3312 FAX:083-934-3360◆



菜香亭の扁額の中で最も古いもの。木戸孝允書「清きこと水のごとく 平らかなることはかりのごとし」

明治維新を迎える3年前の慶応2年1月、京都で長州藩代表として薩摩藩代表の小松帯刀らとのあいだで薩長同盟を締結しました。同年の四境戦争では山口にあつて采配を振るい、幕府軍15万に対して長州藩1万という劣勢でありながら、大村益次郎や高杉晋作の活躍により奇跡的な勝利を治めました。

慶応3年10月、山口で西郷隆盛らと会談し、戊辰戦争のための挙兵を確認。翌年戦争が終結後、新政府が樹立した中で、木戸は明治元年五箇条の御誓文起草などに関わりました。

「逃げの小五郎」と呼ばれ、頼りないイメージもありますが、薩長同盟を結ぶという大仕事の後も明治政府の体制づくり尽力し、「逃げない小五郎」を実現しました。さまざまな軋轢のなか命を削り45歳という若さで、西郷隆盛と同年の明治10年（5月26日）京都で病没した木戸の半生を紹介します。



木戸孝允（山口県立図書館 蔵）

木戸孝允【天保4年（1833）〜明治10年（1877）】は、萩で藩医の家に生まれました。のち武士の桂家に養子に入り、桂小五郎を名のりました。禁門の変で幕府に追われる身となり名前を変えては潜伏しているときに藩の革新派政権を迎えられ、実質的リーダーとして藩政改革を推進しました。

## 逃げない男 明治維新三傑 木戸孝允

きど たかよし

## 大ピンチ！木戸の苦悩〜奇兵隊 脱退騒動〜

大河ドラマ「花燃ゆ」で木戸孝允をイケメン俳優東山紀之が演じていました。戊辰戦争後に不当に解雇された奇兵隊諸隊の不満が爆発して暴動を起こした「奇兵隊脱退騒動」のシーンで苦悩に満ちた木戸を熱演していたのが印象に残っています。

明治3年1月22日、とうとう兵が毛利敬親・元徳のいる御館へおしかけ暴動を起こしました。26日、木戸は体制を整えるために、山口を脱出し、下関に向かいます。

山口糸米の自宅からひそかに矢原の豪農吉富簡一宅に移動し、そこから農夫三人の案内で山道を通り、小郡へ向かい、長府の兵を率いて小郡へ戻ってきます。そして激戦の末、脱隊騒動を鎮めました。その後脱隊兵の多くは処刑されました。

明治政府の威信をかけて木戸は武力鎮圧を選択したのですが、この行いもまた木戸の寿命を縮めることになっていくのでした。



明治26年建立 脱退諸士招魂碑(山口市 桜)

## 新しい日本の夜明けは、木戸の生命に影を落とされた

画期的なこの誓文は木戸孝允の功績としてあげられますが、後にこの誓文のために木戸は理想と現実のギャップに悩み心身を憔悴させることになりました。

五箇条の御誓文（わかりやすく紹介）

- 一 広く会議を開いて、すべての政治は人々の意見によって行われる。
- 一 国民が一丸となって新しい国を作っていく。
- 一 身分制度にかかわらずだれもが志を全うできる。
- 一 昔の慣習にとらわれず国際社会に合った行動をする。
- 一 知識を世界からまなんで、天皇を基にした政治体をつくる。

## ◆菜香亭市民ギャラリー出展作品紹介・予定表◆

### <市民ギャラリー出展作品の紹介>

第11回山口の秋を彩る“陶芸と華道”の展示会  
—陶酔工房— 10/10~10/11



おいでませ…香りの花作品展  
—花クラフト香りの花 山根道子— 10/23~10/25



やまぐちの四季 絵画展  
—なのはな絵画クラブ— 12/18~12/20



出展ご希望の方は、  
2ヶ月前までにお申し出ください。

※ご利用について内面に詳しく掲載しています。

(お問い合わせ)  
TEL : 083-934-3312  
FAX : 083-934-3360

## これからの展示予定！ 見に来てね！

<平成27年度 市民ギャラリーの予定> 1・2・3月

月日	時間	タイトル	主催者
1/22 ~24	9時~17時 (初日のみ13時より)	てぬぐい展 ~山口のてぬぐい~	山口県立大学
3/4 ~3/6	10時~16時 (最終日のみ17時まで)	いぬのはなし Part II in 山口 (犬の絵画)	正札和詩
3/16 ~21	9時~17時 (初日のみ9時半、 最終日のみ16時まで)	笑顔の輪がひろがる山口 絵手紙作品展	山口絵手紙ぼすと 倶楽部

## 史的魅力と菜香亭

菜香亭初代館長 福田礼輔

現菜香亭の玄関口に明治新政府で活躍した井上馨の菜香亭名由来の扁額が飾ってある。

菜香亭は幕末に旧藩庁が萩から山口へと移転したとき、山口に移住し料亭を運営した萩藩の膳部職（割烹支配人の齊藤幸兵衛）に対し、当時の政府要人である井上馨が山口出身であることから「祇園菜香亭」の名として齊藤幸兵衛の名前から「齊」と「幸」を併わせて「菜香亭」と名付けるに至った。

以来菜香亭は各時代の文人、政財界人の山口に於ける迎賓館的役割を明治、大正、昭和、平成へと継続してきた。

明治期には伊藤博文、山県有朋、井上馨らが菜香亭を利用してワインを楽しむこともあった。明治時代の菜香亭利用者について多くの逸話も残されている。3代目の幸兵衛は東京上野の精養軒で一年間西洋料理の体験をしたほどだ。岩波書店の明治西洋料理起源によれば東京・上野精養軒、長崎・岐陽亭、山口・菜香亭、熊本・開陽亭が明治の中心的な西洋料理提供店であった。

現存の菜香亭が世間から注目されるに至ったのは文化庁の河合隼雄長官の尽力が強い。氏は京都大学教授時代に度々山口市を訪れ祇園菜香亭の魅力を熟知し保存活用に便宜を図っているが勿論当時の山口青年会議所を中心とした保存活用も実証された。

その後菜香亭は現在の安倍首相をはじめとする政財界の昭和・平成時代における書画が並列されており菜香亭を囲む雑木林も春季への鼓動をひそかにつづけている。

